

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：県立伊東高等学校、伊東市立北中学校
- 2 実施日時：2017年（平成29年）10月30日（月）
- 3 対象：県立伊東高校 全校生徒 474名、伊東市立北中学校 全校生徒 154名
- 4 派遣オリンピック：金藤理絵さん（競泳女子 200m平泳ぎ リオデジャネイロオリンピック金メダル）
- 5 授業内容：講演

平成29年10月30日（月）に、伊東市観光会館ホールにて、リオデジャネイロオリンピックにて競泳で金メダルを獲得された金藤理絵さんに、ご自身の競技人生などについてご講演いただきました。講演に先立って、会場の雰囲気盛り上げ、オリンピックやパラリンピックに対する生徒たちの興味・関心が高めるために、約15分間、伊東高校の保健体育教師によるオリパラクイズが実施されました。たとえば、「日本人が初めて金メダルをとった競技は何でしょう？」といったクイズに対して、生徒たちは持てる知識を最大限に活用し、楽しみながら取り組んでいました。

金藤さんは広島県の庄原市出身で、お兄さんとお姉さんが水泳を習っていた影響で水泳を始められたそうです。高校生のときには、ジュニア大会で敗北した相手に「次こそは負けない」という強い思いで練習を重ねた末、見事にインターハイで優勝をすることができたそうです。そして大学へ進学してからもその勢いは止まらず、始めのうちは順調に結果を出すことができ、「これからは私が水泳を引っ張っていく」と意気込んでいた矢先、大学4年生のときに腰部ヘルニアを発症し、その後は全く結果が出せず練習もまともにできない状態になってしまったそうです。腰痛のせいで練習量が落ち、筋量も低下したことでロンドンオリンピックの代表選考に選ばれることができず、もう水泳を辞めたい、辛いと思う日々が約2年も続いたそうです。

しかし、そんな自分のことを応援してくれる人たちの存在に気づき、こんなみっともない結果のままでは終われないと気持ちを入れ替え、当時は27～28歳という年齢でしたが大学時代よりも厳しい練習メニューに切り替え、今まで以上に水泳と向き合ったそうです。その頑張りを周囲からも認められ、リオデジャネイロオリンピックの選考会では、今まで以上の大勢の人々が金藤さんの応援に駆けつけてくれ、声援が大きな力となったと話していただきました。決勝レースの前は、今までこれだけ練習を積み重ねてきたから絶対に大丈夫だという確固たる自信を持ち、堂々と競技に臨むことができたそうです。また、コーチからも「強い金藤理絵になりきってこい」と後押しされ、気持ちに余裕を持ってレースができたそうです。

質疑応答の時間では、たくさんの生徒たちから質問があがりました。1人の生徒から座右の銘を聞かれると、「一步」だと話していただきました。金藤さんは社会人1年目にこの言葉を座右の銘にしましたが、当時はヘルニアの痛みもあり全く結果が出ない一番辛い時期だったため、一步さえも踏み出せていない状況でした。しかし、どんなに暗闇の中にももがき続けることで必ず一步を踏み出すことができ、どこかにたどり着けるはずだと話していただきました。金藤さんの場合は、コーチや友人が光となって自身を導いてくれたことも大きな助けとなったそうです。最後に、会場にいる生徒たちへ「夢や目標を持つ意味をもう一度考えてほしい」とメッセ

ージを送っていただきました。夢や目標は叶えることができればもちろん良いけれど、実現可能な夢だけでなく小さい頃に抱いたような、もっと大きな夢を持ってほしい。夢を持つだけで、心が折れそうになったときに頑張ることができるし、大切なのはどんなに悪い状況の中でも頑張りが続けることができる姿勢だと思います。中学生・高校生のみなさんも、これから先、思い悩むことがたくさんあると思いますが、そんなときは自身の抱いた夢に向かって頑張ってくださいと、激励の言葉を送っていただきました。

6 授業の様子



【オリパラクイズの様子】10問ほどの問題を伊東高校の先生が出題し、勝ち残り戦形式だったため大いに生徒たちは盛り上がっていました。



【生徒代表よりお礼の言葉と花束贈呈】

【講演の様子】

金藤さんに、時に冗談も交えながら楽しく講演をしていただきました。質疑応答の時間には、挫折の乗り越え方や文武両道の方法に関する質問が飛び交い、生徒たちが今日の講演を聞いて自身の生活の糧にしていこうとする姿勢が伺えました。